



東京龍門会報

発行所
東京龍門会

発行人
国分和夫

東京龍門会組織の強化と拡大へ —同好会も活発化の兆し—

第七回東京龍門会の総会が去る六月九日(土)品川区大崎にある三州クラブで開催された。開會に先立ち、死去された海音寺潮五郎氏、黒川清雄氏その他数名の同窓生諸氏の追悼の意を表し、黙とうを捧げ総会に入った。総会には旧中学・女学校・高校の同窓生約一九〇名が参加され、郷里の方から佐藤八郎同窓会会長(中・昭二年卒)母校の白浜伝校長(中・昭14卒)と岡山真樹先生(高・昭36卒)がお見えになりました。また恩師の柴田先生(大15)昭8在英語)の列席もいただきました。会は今村彬副会長(高・昭25卒)の開会のことばで始まり、国分和夫東京龍門会会長(別項参照)佐藤同窓会会長ならびに白浜校長、それに来賓の柴田先生、先輩の前田稔氏、浜田尚友氏からそれぞれあいさつがあった。佐藤同窓会会長は、現在、設立を進めている「加治木高等学校教育振興会」(2頁参照)の趣

白浜伝校長

佐藤八郎同窓会会長



旨と基金の援助について、同窓生各位のご理解と協力を是非お願いしたいと呼びかけられた。白浜校長からは母校の近況を中心に、ことに五十年來のスタンドがかなり傷んでいたもので、その修理とクランドの造成を行なった。そのせいかどうか、スポーツに国体クラスの選手が何人も出てきて今後が楽しみである。また進学にしても例年より予想以上の好成績をあげ、先輩諸氏に恥じない後輩の育成に当たっている旨の話があった。

議事の審議に入り、53年度の事業経過報告と、会計並びに監査報告が行なわれ、いずれも報告書通り承認された。例年のことではあるが会費納入率が非常に低いので、会費納入について積極的なご協力をお願いしたいとの要請があった。続いて54年度の予算案と事業計画が上程され、原案通り承認された。それによると今年度の主なるものは、同好会活動の推進と、東京龍門会会員名簿の整備である。

議事の審議もとどきおわりなく終り、高野すみ子副会長(女・昭十七卒)より閉会のあいさつがありパーティーに移った。午後六時頃散会した。

なお、右斜め下の写真は、総会の風景で、その下斜めの写真は前田稔大先輩が、あいさつされているところである。

◇ ◇ ◇

会長あいさつより

東京龍門会会長 国分和夫(中・大14卒)

今日は54年度の総会を開催しましたところ、みなみなさまにはおいそがしいところ多数おありいただきました。また、ありがとうございます。また、はるばる鹿児島から佐藤会長、白浜校長先生を初め諸先輩の御臨席をいただきまして感激のほどでございます。私も会長の大役をおおせつかりまして一年たちましたが、これといったことがなくてまことに申しわけないと思っております。しかし前の若松会長、安田副会長、酒匂幹事長、その他の方々の御努力によりまして、この会の基礎もすつかり固まっておりますので、それにのっかって私はなにもやっております。ただもし何かあったとするとそれは副会長、幹事長、その他の幹事の皆さん



のご骨おりの結果でございました。これからもご協力を得まして職務を遂行させていただきます。更には幹事の方ばかりでなくみなさんのご協力とご指導を切に願っています。次第であります。

私はこの会をより強力にするためにいろいろとこの一年間考えてまいりましたが、残ったこの一年間、次のようなことをやってこの会をよりいっそう拡大、強化したいと思っております。

まず組織を強化するためにせつから作りました会員名簿の中から住所がわからなかつたり、転動されたりして200名余りの方が所在不明と云うような状態になっております。それで今まで幹事をお願いしてお願いした人で非常に精力的に協力していただいた方もおりますし、幹事会にもまた、本日の総会にもみえない方もありますので、この会の発展を維持するために新たに各期から1、2人の幹事を出していただきましてより内容の充実した会を作りたいたいと思っております。

それからこの総会のあり方についていろいろいいアイデアを出していただきたいと思いが、例えば家族ぐるみの会にして子供さんといっしょに、また孫に手をひかれてこられるというようなごやかな会をぜひやってみたいと考えております。それから特に会員のみなさんにお願ひ申し上げたいことは、こゝろ教育振興会ができて、後進の育英のために財団法人を作ることにきまりました。すでに鹿児島の方ではその資金づくりのために募金しておられるわけでございます。700、800万の金を用意されたようでございます。東京ではその半分ぐらいいは、や

れというような話でございますので、東京龍門会としましてぜひご期待にそうような成績をあげたいと思っております。それにこれからもいろいろ募金もございまして、そんな時に会としてもそのつど寄附を集めるといふことではなしに、50万でも100万でもいつでも出せるようにしたいと思っております。それにはやっぱり大部分の会員の方々に会費をおさめてもらえようなくみにしていかなければなりません。そのためにもどうしても組織をしつかりしないとイケないと思っております。そして総会の時に総会費はいただかないというふうなふうにしたいと思っております。それから同好会といったようなものも企画しましたところ、ゴルフをやりたという方が60数名おられました。う方が20数名おられました。つ

龍門瀧と桜島

前田 稔 (中明43卒)

前回の同窓会までは、私の三回上の黒川清雄先輩が御健在で私はその後について気強く思っております。この一月亡くなられ、今日は私が最年長ということになりました。今更乍ら自分の年輪を感じる次第です。黒川清雄さんは先輩同窓生の中で、最も尊敬する一人でした。ここにその御遺徳を偲び、心を



りをやりたいという方が10数名おられました。それから結婚相談でも、よりよい結婚でスタートしたいというご希望の方が大ぜいいらつしやるようでございます。このようなことをこれからもつと強化していき、まともていきたいと思っております。

いろいろありますけれども、すべてが会員のみなさんの積極的なご協力、ご援助をいただかなければ計画は実行できませんので、どうか今日おいでの皆様にご無理をお願いすることになると思っております。どうかよろしく願ひいたします。それから前の副会長の安田さんと酒匂さんに顧問になっていただき今後より一層御援助を御願ひしたいと思います。だいたいこのようなことでこの会がますます発展するように精いっぱい努力をしたいと思いますと思っておりますのでどうか皆様方のご協力をお願いします。

こめて御冥福を祈ります。

「龍門」という字句が瀧の名として、關戦経という日本の古い兵書に出てきます。關戦経の著者は不明ですが、代々源家に伝わっていたもので、一説には大江匡房の著作ともいわれます。中国の兵書孫子、呉子に比せられるものですが、關戦経は日本的に精神面を重視した兵書です。序文と本文五十三章から成り、各章は一行ないし二行、中には単に数字句のものがあり、極めて簡潔なものです。それだけに意味甚だ深長にして、含蓄さぶる豊かな兵書です。この兵書が伊豫松山藩の文庫に所蔵されてあったのを、他の多くの類書と共に、江田島海軍兵学校の教育参老館に移管保存されています。

その第四十二章に
龍騰大虚者勢也。鯉登龍門
者力也。

(龍の大虚に騰るは勢なり。
鯉の龍門に登るは力なり。)
とあります。そして海軍兵学校
で編集した解説書に、次の通り
説明してあります。

「この章は事を成すに力行を先
とすることを、喩をもつて説
く。龍の大虚に騰るとて、手
掛りもなき天に騰るは、勢の
然らしむるところ、鯉が龍門
(瀧の名なり)に登るは力なり。
鯉力を発して龍門に登り龍と
なる。また天上に至ることを
得べし。将たる者力を発する
時はよく敵に勝つこと速かに
成る。力行充つれば鯉の如く
龍に化し、すべては聖に化し、
自ら勢を生じて、天にも登る
の徳備わるべし。」

また、桜島はわが三州のシン
ボルであります。筑前黒田藩の
志士平野国臣は、鹿児島に来て
桜島を眺め

わが胸の燃ゆる思いに比べれば
桜島はうすし桜島山
と詠みました。かれは桜島の

静かに昇る噴煙をみて歌ったの
でありましょうが、桜島の中
は、絶えず火の玉が燃えていま
す。それが時になれば大爆発を起
し、天を焦がす火焰とおり、天
に沖する大噴煙となります。そ

の火の玉は、われら三州人の烈
々たる魂を表徴し、大爆発は三
州人の驚天動地の活躍を表現す
るものです。例えばわれらの大
先輩たちはその烈々火のような
魂を、明治維新に遺憾なく發揮
しました。

われらの母校は龍門瀧を近く
に控え、桜島をはるかに望む形
勝の地にあります。ここに学ぶ
者は桜島の燃ゆる火の玉を己れ
の魂とし、龍門に登る鯉の力行
に負けない努力をもって、日夜
螢雪の功を積んできています。

現在わが国は表面上では、最
も平和で豊かに恵まれた国です
が、現実には内外の情勢がますます
厳しくなっています。それが
さきの大戦前夜の比でないこと
を、当時軍令部第三部長として
専ら海軍の情報関係の仕事に携
わっていた私は特に痛感します。
今や世界的戦国時代の様相は年
々濃くなっています。世界史的
観点からも今は史上かつてない
重大な時代の大転換期に臨んで
います。

この時創立八十周年余を経て
いよいよ発展充実したわれらの
母校から、これからの日本を背
負って、世界的規模の大維新
に対処し、縦横に活躍する人材
が輩出することを期待し切望し
て己みません。

お知らせ

財団法人「鹿児島県加治木高等学校教育振興会」
の設立について、「ご協力を!!」

財団設立の趣旨

同窓会幹事会において、創立
八十周年記念事業資金の残金五
百万円の使途について検討の結
果、下記の趣旨により、「五百万
円を基金として財団法人を設立

する」という結論に達しました。

(一)五百万円の浄財を一時的に、
限られた目的のみに使うのでは
なく、五百万円を基金として年
次的に寄付を募り、その基本財
産から生ずる果実によって、加



恩師の吉村道子(旧姓小浜)先生(中央)の方が、教え子のように、カメラは有りの儘を
写すから恐いですネー、ナニ恐いのは後ろのメガネの男性 ジャイカモナー!!



世の女性よ、僕たち鹿児島県の男性もこんなに女性を大切にするようになり
ました。偏見はよしてどうかデートしてください。ナニイッテルノヨー!!

■パーティーから……
酒を酌み交わし、談笑
にふける同窓生グループ
のひと時をカメラがとら
えたものです。



この人たち何やらニヤニヤしているのが気になるナー。まさかこんな
所で〇〇写真を見せ合っているわけでもなからうに、イヤネー!!



ドコン ダイテロハンノ ムスコトオゴジヨハンカ シタンドン
アゼ オンジヨナッセー イクツ ジャイヤオカイ イケッセン
カンニコン!!



アデランス無用協会(?)の総会で、答弁に窮された会長さん
と副会長さん 額を寄せ合わせてのご相談です。スママセンデス!!



勉強はマァマァ、音楽は常にトップだった人達の混成合掌壇。紅白歌合戦に
出してもらえるかもヨ、イイジャーイ!!



かつてはモンペイ姿のかわいいお嬢さん達？今では親の17子は知らぬ、で何かと子供にお説教しがちな年ごろになりました。ハイ!!

終戦当時コッパン1つを2人で分け、どうにか生きながらえてきた人間の 見本のような人達。ユ キバイヤシタ!!

救

治木高等学校ならびに地域社会の教育・文化・スポーツの振興を図る諸事業を、永続的にしかも有効に行なっていく。

(二)この財団法人を、民法第三十四条にある「公益に関する財団で営利を目的としない財団」とし、所得税法の(寄付金控除)の適用をうける。そして、この財団に寄せられる寄付金に対する免税措置の特典によって、寄付金を賜わる方々の負担を軽減しながらしかもそのご芳志を有効適切に生かしていく。

◎ 財団の事業

(一)施設、設備の充実のための補助金の支給

鹿児島県立加治木高等学校生徒が日常の部活動において使用する、あるいは地域住民への学校開放へ体育の実技練習・行事、文化的講座・行事等)において使用する施設・設備の充実を図るための補助金を支給する。

(二)奨学金の支給

鹿児島県立加治木高等学校生徒を対象として、不測の事態(交通事故等による保護者の死傷、台風等による災害等)により学費の支弁困難な生徒に対して奨学金を支給する。

(三)学術、スポーツ振興のための助成金の支給

鹿児島県立加治木高等学校生徒および地域住民のなから、学術・スポーツにおいて自主的な研究、修練を重ねて、全校生徒、地域住民の範となる成果をあげた生徒および地域住民に対して助成金を支給する。

(四)文化講演会等文化的諸行事の開催

鹿児島県立加治木高等学校生徒および地域住民を対象として、豊かな心情と知性ある人間の育成に資する文化講演会等文化的

諸行事を開催する。

(五)鹿児島県立加治木高等学校同窓会の育成

物心両面にわたって絶えず母校に激励と援助を措きみなく与えてきた鹿児島県立加治木高等学校同窓会の育成振興を図るための補助金を支給する。

◎ 財団設立の許可申請の経過について

同窓会幹事会は財団設立の趣旨をうけて、設立準備委員会を設置して諸準備に当たり、去る昭和五十三年四月二十三日の創立総会において、財団法人「鹿児島県立加治木高等学校教育振興会」の設立が決議されました。これをうけて設立準備委員会は基本財産五百万円をもって発足し、基本財産を年次的に増資する計画のもとに設立許可の申請をいたしました。ところが、関係当局において審査の結果、財団法人としての基本財産の許可基準額は二千万円であるが、現段階において、さらに七百万円の寄付予約者名簿の添付提出によって許可される見通しであります。

◎ 財団の基本財産の増資運動について

財団の運営はPTA・同窓会等から独立してなされますので、果実の源である基本財産二千万円を確保するために、至難の業かと存じますが、予約寄付以外に八百万円の増資運動を展開しなければなりません。私たちは財団の理想実現を目指し、皆様の御理解を力として広く御寄付を仰ぎたいと存じます。なお、寄付金は免税の特典があります。というようなことで左記の件について東京龍門会としては、同窓会事務局から三百五十万円程の寄附協力の依頼を受けており

ます。つきましては会員各位から一口千円(二口以上お願ひします)の寄附を抑ぎたく、お手元に依頼状と払込用紙等が送付されるはずで、ご協力くださいますようお願い申しあげます。

同好会だより

◎印のついている方が、その部の幹事役です。()内の月日は開催予定日です。詳細は幹事へお問い合わせください。

◇釣りの部(十月下旬)

- ◎ 鷗木 繁(昭17) 横山芳文(昭19)
- 寺師秀美(昭20) 古川清人(昭21)
- 林 鉄也(昭25) 早淵昭秀(昭26)
- 川口栄三(昭26) 木佐木卓郎(昭27)
- 福島俊作(昭27) 宮永直幸(昭28)
- 福菌 保(昭28) 後藤徳司(昭29)
- 岩元 隆(昭29) 長野忠雄(昭30)
- 野村正平(昭38) 竹田茂隆(昭43)
- 小屋敷敏明(昭44) ◎酒又昭男(昭26)

◇囲碁及び将棋の部(十一月上旬)

- ◎ 国分和夫(大14) 泊 正徳(昭3)
- 安田清廣(昭4) 立山清治(昭7)
- 別府 斎(昭13) 吉満 肇(昭13)
- 福追栄也(昭14) 柳 逸雄(昭15)
- 宮園幸男(昭19) 高橋 渉(昭20)
- 松元 昭(昭20) 国生輝一(昭21)
- 竹元 勇(昭23) 松下兼末(昭25)
- 井之上隆夫(昭26) 肥後 亨(昭27)
- ◎後藤徳司(昭29) 上原孝司(昭29)
- 重森末則(昭28) 上野正道(昭29)
- 長野忠雄(昭30) 大迫俊正(昭31)
- 河野紀彦(昭34) 鷗木 悟(昭26)

◎ゴルフの部(十一月六日)

- 林 恭雄(大13) 福村厚江(大14)
- 森 徳治(大15) 浜田尚友(昭2)
- 若松文保(昭2) 荒瀬 侃(昭3)
- 安田清廣(昭4) 吉川辰見(昭5)
- 酒匂鴻一(昭6) 立山清治(昭7)
- 中馬辰猪(昭8) 川野秀毅(昭12)
- 別府 斉(昭13) 吉満 肇(昭13)

- 大迫敏郎(昭15) 馬場正信(昭16)
- 満田四郎(昭17) 浦野八夫(昭18)
- 村岡高昭(昭19) 横内基康(昭19)
- 横山芳文(昭19) 島田次夫(昭19)
- 伊地知秀隆(昭19) 篠原 肇(昭22)
- 鷗木親村(昭22) 野村 詢(昭22)
- 山崎和生(昭22) 藤谷宣人(昭23)
- 小松能久(昭24) 岸園 司(昭25)
- 徳田誠一郎(昭26) 伊藤康夫(昭26)
- 長岡保彦(昭26) 大重己代志(昭27)
- 宇都宮明人(昭27) 木佐木卓郎(昭27)
- 肥後 亨(昭27) 宇宿 董(昭28)
- 向江源治(昭28) 後藤徳司(昭29)
- 島田正雄(昭29) 岩元 隆(昭29)
- 今古川勇(昭31) 稲田 勝(昭31)
- 長野巨利(昭32) 有村武治(昭32)
- 箕輪康明(昭32) 市来研志(昭32)
- 窪田幸男(昭32) 住吉 貢(昭33)
- 安田照雄(昭33) 城 義昭(昭34)
- 山崎 巖(昭36) 藤島義行(昭37)
- 矢口裕孝(昭37) 河野正美(昭39)
- 中村順一(昭41) 竹田茂隆(昭43)
- 堂脇 悟(昭45) 二階堂鳳平(昭15)
- 別府 登(昭24) 今村 彬(昭25)
- 原田 中(昭24) 吉嶺 達(昭18)
- ◎榊山 亨(昭29)

結婚のお世話をいたします

○花婿・花嫁を求む!!と 呼びかけてから一年になります。遠くは四国の高知県からも、ご連絡をいただき、盛況ぶりをご利用してあります。

現在、女性の方が十七・八名で男性の方が五・六名です。花婿希望の方が少ないのが悩みの種です。遠慮なさらずに、どしどしご連絡ください。極秘にしていますのでご安心ください。履歴書、身上書、希望、写真と同封の上左記へお送りください。お待ち申しあげます。

東京都杉並区松庵三の三九の五
彦野 すみ子宛
電話 03 (332) 四六六八

(4頁の転勤・移転より)

- 千葉県立京葉工業高等学校へ転勤しました。
- (中・昭十七卒) 鷗木 繁
- 横浜市旭区万騎ヶ原十九の四へ移転しました。
- (中・昭十七卒) 講田四郎
- 東京都葛飾区東立石四の十四の十二へ移転しました。
- (高・昭二十四卒) 最勝寺哲也
- 練馬区豊玉南一の十五の十二、沼袋ニューパールハイツ三〇五へ移転しました。
- (高・昭二十五卒) 山上静子
- 府中市緑町一の七六七五の七へ移転しました。
- (高・昭二十八卒) 河野 連
- 川崎重工(株)を退社し臨海塗装工業(株)へ勤務しました。
- (高・昭二十九卒) 岩元 隆
- 秦野市沼代新町五の二五に地名変更になりました。
- (高・昭三〇卒) 諏訪千恵子
- 海上自衛隊幹部学校へ移転しました。
- (高・昭三十四卒) 出水克明
- イトヨーカドーに転職しました。
- (高・昭三十五卒) 移留節穂
- 大東建設(株)へ転職しました。
- (高・昭三十七卒) 藤島義行
- 新日本製鉄(株)退社後フォトスタジオを開設しました。
- (高・昭三十七卒) 矢口裕孝
- 日本橋室町に歯科医院を開院しました。
- (高・昭三十八卒) 桑幡常昭
- 埼玉県新座市一の十の三八へ移転しました。
- (高・昭三十九卒) 河野正美

頑張っています。東大和市体育指導員として諸大会の企画運営、そして審判等してスポーツ人口の増加のため情進しております。

(高、昭二十五卒 安楽久太)

○この春北関東地区将棋選手権を手中に納めました。いよいよ全国アマ名人戦を目指して頑張ります。現在日本将棋連盟公認の五段です。

(高、昭二十六卒 鶴木 悟)

○四十五才になりました。男女共に興奪したのもついせんだつてのようです。横浜の梅ヶ丘にある日本専売公社中央研究所に勤めています。同窓の皆様のために何かお役に立てれば嬉しいのです。

(高、昭二十七卒 木佐木卓郎)

○八十一才になる父が去る五月十一日に勲五等瑞宝章を受賞いたし、家族だけの祝賀会をする日と重なり残念ながら失礼させていただきました。毎回ご案内をいただきながら欠席ばかりで申し訳なく存じております。

(高、昭二十九卒 殿村圭子
(旧姓田野崎)

○和興産業へ転職し相変わらず汗過器全般をやっています。声学の方は息子、娘の伴奏で時々ウナル程度で、最近はおマチュア無線に凝ってコールはJKINPUです。コンタクトよろしく。

(高、昭二十九卒 上野正道)

○健康のためにとゴルフをはじめました。出来るといってもハンデイー六〇位ですが、ゴルフ会の皆様が菊川カントリークラブをご利用の際は是非ご一諸させて下さいませんか。

(高、昭二十九卒 妻島久美子(旧姓郡山)

○最近夢の中で高校時代の友達に会ったり、テストで苦しめられたりしています。まるで昨日の事のようにはつきりく、なつかしいな……!!

(高、昭四十卒 石井洋子(旧姓播磨)

○総会の案内を受けなつかしく思いましたが、近々二人目の出産前にて、残念ながら欠席させていただきました。

(高、昭四十二卒 川畑愛子)

○皆様お変わりございませんか、私は毎日子守りにおわれています。

(高、昭四十三卒 田中貴美子(旧姓亀沢)

○小学校六年生担任の教師をしています。そろそろ嫁さんが欲しいと考えております。

(高、昭四十五卒 丸尾 実)

〔転勤・移転〕

○53年3月31付で神奈川大学を定年退職しました。

(中、昭五卒)川添亮一

○富山市に転勤になり、富山市向新庄荏原二二五 セブンスデードベンチスト富山教会に移転しました。

(中、昭十六卒)細山田三精
(3頁下段へつづく)

〔編集後記〕

△会長あいさつで「例えば、家族ぐるみの会にして、子供さんと一諸に、また孫に手をひかれて、というなごやかな会を是非やってみたい」というアイデア、実現させてみたらどうだろう。△校長先生の「スタンドを修理しグラウンドを造成した」話で思い出されるコマであるが、戦争も末期、体操の時間に、いきなりグラマン機の来襲を受けた。全員スタンドの下を流れる溝に避難して助かった。その時スタンドは、何発かの機銃を浴び、後々まで弾痕が残っていた。△グラウンドは、空襲で焼け野原と化した校舎の後地と共に、終戦当時はカライモ畑であった。食糧増産に寄与したグラウンドは、多くの人々の飢えをしのいでくれた。まさにスタンドとグラウンドは当時の人にとっては、命の恩人ともいえた。△楠の老木も、今ごろはひとときわがやえて見えることだろう。みなさんお元気で……(堀中)

特許・実用新案・意匠・商標・内外国出願代理

樺山特許事務所

弁理士 樺山 亨

(高6回卒)

東京都世田谷区桜丘2-6-28

〒156 TEL (03) 428-5106

司 德 藤 後 士 護 弁

(高6回卒)

事務所 東京都中央区銀座4丁目5番1号

教文館5階 後藤信夫法律事務所

電話 (561)1682・1766・6221番

自宅 東京都世田谷区北烏山7丁目15番5号

電話 (308) 5424番